

砂防ボランティア通信

1997. 9. 9

Vol. 1

発行：大阪府砂防ボランティア協会

発行にあたって

大阪府砂防ボランティア協会へようこそ。ボランティアとして、当協会にご参加いただいたことに深く感謝いたします。阪神・淡路大震災を契機として、土砂災害を防ぐためには、行政の力のみでは不十分であることを認識し、ボランティアの力を結集するために、平成8年9月17日に大阪府砂防ボランティア協会が有志により結成されました。私たち一人一人にできることは少しでも、目的に向かって協力することにより、災害を未然に防ぐことが可能である信じております。

砂防ボランティア通信は、当協会からボランティアの方々への情報連絡の一助になればと作成するものです。今後とも、ご協力をお願いいたします。

大阪府砂防ボランティア協会 会長 川村 孝一

『砂防ボランティア全国連絡協議会』が発足

6月2日に大阪・千里万博ホールにおいて、平成9年度「土砂災害防止月間推進の集い・全国大会」が全国から約1,400名が参加して盛大に開催されました。

式典に続いて全国の砂防ボランティア46団体による「砂防ボランティア全国連絡協議会」の発足式や砂防ボランティアをテーマとしたシンポジウムなどが執り行われました。

- ・第1部 式典（土砂災害防止功労者表彰）
- ・第2部 「砂防ボランティア全国連絡協議会」発足式
- ・第3部 シンポジウム
- ・第4部 大阪府警察音楽隊演奏



土砂災害の種類

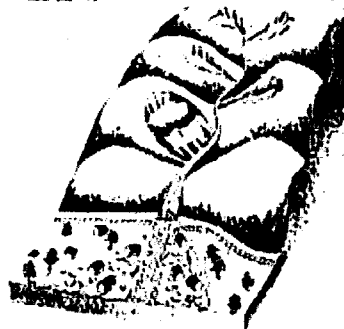
土砂災害には土石流、地すべり、急傾斜地崩壊（がけ崩れ）の3つのタイプがあります。

●土石流

水を含んだ大量の土砂・礫が急な溪谷を津波のように流れ下るもので「山津波」とも呼ばれています。

流れの先端部に大きな礫があることが多く、その流れの速さは時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させてしまいます。

土石流



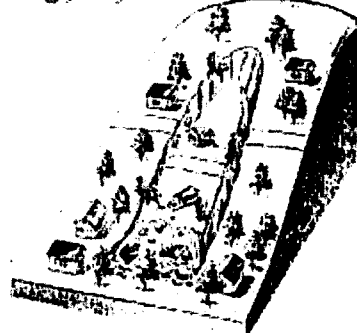
●地すべり

粘土質などのすべりやすい土質を境目にその上部の地面が動きだしてゆっくりすべり落ちることです。

がけ崩れに似ていますが、傾斜の緩い斜面でも発生し、ゆっくりと継続的にすべることもあります。

また、発生規模は広範囲にわたります。

地すべり

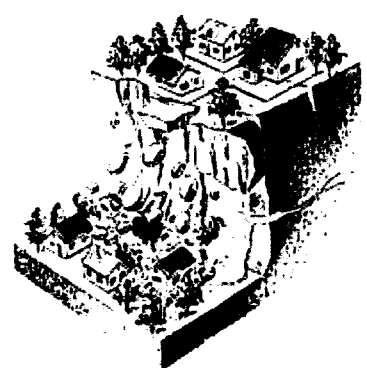


●急傾斜地崩壊（がけ崩れ）

雨で地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が急に崩れ落ちることです。

また、崩れ落ちる速度も早く、地震が原因で起こることもあり、人家の近くで起こると死者の出る悲惨な災害となります。

急傾斜地崩壊（がけ崩れ）



■最近の土砂災害（大阪府）

8月7日未明から集中豪雨に見舞われ、箕面市において土砂崩れが発生、民家が損壊、16世帯49人が近くの小学校などに避難しました。人的な被害はありませんでした。

現場近くの六個山雨量観測点では、午前3時から4時までに時間雨量88mmを記録しました。（大阪管区気象台によると時間雨量99mmと発表されました。これは、大阪府内では観測史上最高のものです。）



■最近の土砂災害（全国）

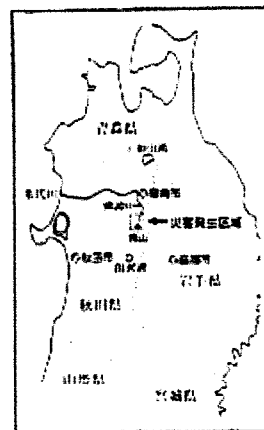
全国でも大きな土砂災害が相次いで発生しています。平成9年度（7月31日までの調べ）に起こった土砂災害は全国で742件、31人の死者がでています。新聞やテレビのニュースでご存じかと思いますが主なものをご紹介します。

●秋田県鹿角（かづの）市の地すべり及び土石流災害

平成9年5月10日午前、秋田県鹿角市の熊沢川上流の澄川温泉で幅700mにわたって地すべり（約250万㎡の土塊が移動）が発生し、澄川温泉旅館9棟が全壊しました。翌11日午前8時頃には河道内堆積した土砂（約50万㎡）が土石流となって下流約2kmまで流下し、地すべり末端部から約1km下流にある赤川温泉旅館7棟を押し流しました。

幸いにして、旅館の人が地すべりの兆候（飲料水の濁り、道路の亀裂など）に早く気づき通報と避難をしたので、人的な被害はありませんでした。

土石流は約50万㎡と莫大な量が流下しましたが、砂防ダム群により土石流をくい止め、下流への被害拡大を防ぎました。もし、砂防ダム群がなければ、下流域にある集落（人家数64戸）や交通網に激甚な被害をもたらしたことが予測されています。



●長崎県佐世保市原分（はるぶん）町の地すべり災害

平成9年7月6日夜から降り続いた梅雨前線に伴う降雨により、長崎県佐世保市原分町で地すべり（幅45m、長さ70mの規模）が発生しました。人的被害はないものの、家屋4戸（全壊3戸、一部損壊1戸）の被害があり、避難勧告に伴い最大53世帯、141名が避難しました。

7月6日午前0時から7月14日午後2時までの総雨量は421mmに達しました。

●鹿児島県出水（いずみ）市の土石流災害

平成9年7月10日午前1時頃、鹿児島県出水市の針原（はりはら）川で土石流（約20万㎡）が発生しました。死者21名、負傷者13名（うち重傷2名）の人的被害と人家23戸（全壊18戸、半壊1戸、一部損壊1戸、床上浸水3戸）の建物被害を受け、45世帯125人が避難しました。

7月9日の日雨量は275mm（最大時間雨量61.5mm、午前10時～11時）に達しました。

土石流約20万㎡のうち約5万㎡が下流にある針原川砂防ダム（高さ14m、長さ85m）に堆積しました。建設省土木技術研究所及び御砂防・地すべり技術センターが今回の土石流をシュミレーションした結果、もし、砂防ダムが建設されていなければ、新たに人家約30戸、JR鹿児島本線、国道3号などにも影響がおよんだ可能性があり、被害規模は3倍に拡大していただろうと推測されています。



★砂防ボランティアに関するご意見やご質問は下記までお問い合わせください。

連絡先 : 大阪府砂防ボランティア協会事務局
 ☎540-70 大阪市中央区大手前2丁目
 ☎06-941-0351（代表） 内線2956
 ☎06-944-6039（直通）
 大阪府土木部ダム砂防課内 担当 高城、渡部